ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2023年06月
貨幣と紙幣と通貨
（②通貨の発行権）

ネクストライフ・コンサルティング
〒975-0038
福島県南相馬市原町区日の出町167-3
info@next-life-consult.com
ピカイチ生活経営塾　検索

ピカイチ先生

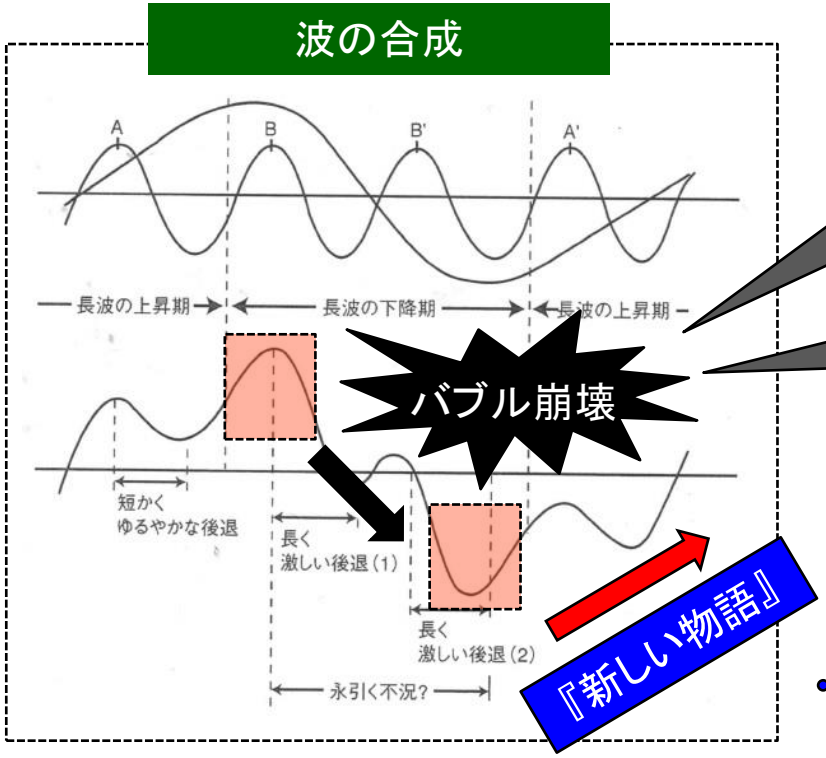
【論点】経済環境の変化

【バブル1】
たとえばドイツのような低金利の国においても、商品の値段に占める金利の割合は 20 %を超えるのではないかと言われており、金利コストは決してバカにならないものなのです。

『失速する世界経済と日本を襲う円安インフレ』より

【バブル2】
日本の人口 1 億 2600 万人のうちの 3000 万人ですから、実に 4 人に 1 人が公務員でご飯を食べているわけです。

『日本壊死』より



『 新しい通貨制度 』

【論点】政治環境の変化

5つの波動の性格づけ

④ キチン・サイクル　3 ～ 4 年周期
在庫循環

③ ジュグラー・サイクル　10 年周期
設備投資の波

② クズネッツ・サイクル　20 年周期
建設循環、建設投資

① コンドラチェフ・サイクル　50 ～ 60 年周期
シュンペーター流では技術革新の波。 物価・金利の波だともとらえる

⑤ ヘジェモニー・サイクル　100 年周期
政治・外交・軍事まで含めて考える世界覇権の移動の波

10年前
2009年
新型インフルエンザ

20年前
2003年
イラク戦争

2008年
リーマンショック

50年前
1971年
ニクソンショック

1944年
ブレトンウッズ体制

100年前
1914年
第一次世界大戦

覇権交代
（英国 → 米国）

【論点】通貨制度の変化

【昔の主役】 ----------→ 【今の主役】

媒　体	貨　幣	紙　幣		帳　簿（借金の記録）	
		（兌換）	（不換）	（預金）	（證券）
発行体	政府 （日本政府）	中央銀行 （日本銀行）		商業銀行 （民間銀行）	投資銀行 （證券会社）
流通額	鋳造	印刷 （制限有り）	印刷 （制限無し）	信用創造	金融派生
労働搾取	搾取 （企業利益）	＋ 利息	＋ 税金 （国債費）	++ 税金 （国債費）	+++ 税金 （国債費）
労働力	商品化 →	義務化 →		標準化 （点数化）	
労働者	資　本 →	担　保 →		数　値	

【復習】銀行制度の根本悪（1/2）

■ マスコミが沈黙する銀行制度の根本悪とは

ここに 10 万円があったとしよう。 常識に従う限り、この 10 万円を元手に 100 万円を貸し出すことはできない。 もしできるとしたら、これは大変な手品であり、「無から有を生じさせる」神業である。

一介の市民からすれば、このような行為は非道徳的であるのみならず、違法であり、詐欺である。 ところが、銀行はこのような詐欺行為を平然と行い、おまけに利子まで請求する。 そして、それを誰も不思議に思わず、むしろ当然と思っている。

すべての手品には、タネがある。 銀行が手持ちの現金よりはるかに膨大な金額を貸し出すことができるのは、銀行が、小切手やクレジットなど「目に見えない金」を用いるからだ。

これを fractional reserve banking と言うが、興味深いことに、いまだに訳語がない。英語産業と英語教育に膨大な札束が取引されるこの国で、このような基本的な日本語が存在しないのである。

この fractional reserve banking（仮に「小額準備金銀行業」と訳しておく）では、預金者全員がそれぞれの預金を全額引き出すことはできない。 そんな大金は最初から存在せず、架空のものだからである。

たとえば、A 社が事業のために銀行から 1 億円借りたとする。 この時銀行が持ち合わせている金額から 1 億円減るかというと、そうはならない。 この 1 億円はまったく姿を現さないまま、「A 社が銀行に 1 億円借りている」という記録が残り、A 社には即刻、利子を払う義務が生じる。

『アメリカに巣くう「闇の世界権力」はこう動く』（2003.07.31 中丸 薫）より

【復習】銀行制度の根本悪（2/2）

こうして借り手が増えるだけ、その銀行の資産は増大するわけだ。

数年前、一獲千金を夢見て、米国の中央銀行である FRB（連邦準備銀行）を襲撃した「銀行」強盗がいた。 だが、金庫の中は空っぽで、何も盗ることができなかった。 この事件は、銀行のカラクリを象徴している。

銀行は、生産行為をする必要は、一切ない。 食糧を生産したり、加工したり、調理したりすることなしに、空の皿に架空の料理を盛って、食事代を請求するようなものだ。 これが現実に行われている。 しかも合法的に。 これがイエス・キリストが断罪したバビロンの金融であり、究極の寄生虫である。

寄生虫は宿主から最良の栄養分を盗み、バクテリアやウィルス感染を広め、宿主に肉体的のみならず精神的な荒廃と死をもたらす。 そして宿主が死ねば、ほかの宿主に移り、あたかも寄生虫のおかげで、宿主が存在できているかのように錯覚させる。

生産行為を伴わないものは、寄生虫の餌食になりやすい。 その代表格が株である。 株式市場は最初から崩壊するように設計され、一般人が損失を被って、裏の寄生虫的な投機家が儲かるように仕組まれているのだ。

その最たるものが 1929 年のウォール街の大暴落である。 これも裏から仕組まれた犯罪であり、レベルが違うだけの同じシナリオが、何度となく繰り返されている。

もちろんマスメディアがこのように報道することもなければ、大学で経済学の教授がこのように講義することもあり得ない。

『アメリカに巣くう「闇の世界権力」はこう動く』（2003.07.31 中丸 薫）より

「小額準備金銀行業」とは？（1/4）

■ マネーサプライは「借金総額」

預貯金のカラクリは、マネーサプライという経済用語を吟味すると、わかってきます。

マネーサプライは、市中に供給されたお金のことをさす言葉だと一般に理解されていますが、これだけではそれが私たちにどう関係することなのか、本当の姿を把握することはできないでしょう。

経済の虚飾をそぎ落としていえば、マネーサプライとは **借金の総額** である、ということができます。 お金の供給が増える、つまりマネーサプライが増えるというのは、いわば見せかけのお金、それも借金が増えるということなのです。

マネーサプライのどこに問題が潜んでいるのか、その点を明らかにして論をすすめていきましょう。

銀行は、人が預けたお金をほかの人に貸して、その金利で稼いでいます。 じつは、日本ではある人から 100 万円を預かった場合、そのおよそ 1000 倍の 10 億円ものお金をほかの人に貸すことができるのです。

これが銀行の **信用創造機能** といわれるものだと、経済学の教科書にはもっともらしい解説が載っています。 ただし、教科書ではなぜか、現在でも 10 倍という数字が使われていますが。

銀行はずいぶん特権的なやり方で営業を行うことができるわけですが、なぜそれが許されているのか調べても、納得のいく根拠はどこにも見あたりません。

『洗脳経済』（2015.10.01　苫米地 英人）より

「小額準備金銀行業」とは？（2/4）

■ 信用創造のカラクリ

信用創造を行うために必要な銀行が保有する預金額のパーセンテージを預金準備率（支払準備率）といいます。 銀行はこの準備率に見合うお金を、日銀の当座預金に預けるよう義務づけられています。 要するに、銀行が貸し出しを行うための証拠金ということです。

準備率は、とくに決まった数式で導き出されるパーセンテージがあるわけではありません。 その算定根拠はやはり希薄で、経済学の教科書では「準備率を仮に10 %とする」という記述が見られるだけです。

いまの日本の準備率はといえば、定期性預金ならば、0.05 ～ 1.2 %、その他の預金なら 0.1 ～ 1.3 %にすぎません。 驚くほどわずかな証拠金といえます。

話を簡略化するために、日本のすべての預金の準備率が 1 %だったと仮定しましょう。 とすると、銀行は 100 万円を預かると、全額を日銀に預け、9900 万円を借り手の口座に創設することができます。

つまり合計の預金残高は 1 億円になります。 1 %の準備率でマネーサプライは100 倍に増えるのです。 日本の現在の準備率は 0.1 %程度ですから、100 万円の預金があれば 10 億円が創造されるということです。

これが、マネーサプライが増えるカラクリです。

つまり、準備制度のもとでは、銀行は信用（つまり借り手からみると借金）を元手の100 倍や 1000 倍生み出すことができる、というのがマネーサプライのカラクリです。

『洗脳経済』（2015.10.01　苫米地 英人）より

「小額準備金銀行業」とは？（3/4）

ということは、たとえばみなさんがマンションの購入に銀行から 30 年ローンで 4000 万円の借金をしたとします。 このためには銀行は、元手として 4 万円から 40 万円の預金があればいいということです。

バブルの崩壊は、担保としての不動産の価値が 2 分の 1 とか 10 分の 1 とかになることで起こりましたが、実際は 100 分の 1 とか 1000 分の 1 にならないかぎり銀行は損をしていないのです。

ですから、本来、銀行業に「不良債権」という概念はないのです。

実際のところ、4000 万円のローンでは、恐らくみなさんは毎月 20 万円とかの元利払いを 30 年間し続け、合計 7300 万円の総額を支払うことになるでしょう（金利 4.5 %の場合）。

ところが、銀行は最初の元利払いが始まったときに元手は回収していて、その後の 30 年間は元手なしのボロ儲けが続くのです。 これが準備制度のカラクリです。

いわゆる「不良債権」という概念は、単純にいえば日本の銀行を潰すため、もしくは日本のバブルを崩壊させるために、わざわざ銀行に一般企業のような会計制度を導入し、借り手の返済能力の低いローンを不良債権と呼び、それが多い銀行は不健全であるとしたものです。

実際は借り手がローンの 100 分の 1 とか、1000 分の 1 を返したところですべてのローンは不良債権ではないにもかかわらずです。 当時の日本政府が欧米の圧力により日本の銀行を潰し、欧米に譲り渡したのです。

『洗脳経済』（2015.10.01　苫米地 英人）より

「小額準備金銀行業」とは？（4/4）

■「勤倹貯蓄」が招く悲劇

貯金や預金をすることは、けっしていいことではありません。 私は、貯金、預金は即刻止めるべきだと考えていますし、折にふれてそのように話をしてきました。

実際に私の会社では、社員の年金積み立ての代わりに、金を積み立てることができないかと検討したほどです。 金を購入すれば、預貯金することなく将来必要なお金を用意できるからです。

郵便貯金で国債を購入し、その資金で財務省証券が購入されるというルートによってアメリカ財務省に吸い上げられたみなさんの郵便貯金が、FRB を通じてアメリカ国内の信用創造で何百倍にも膨れ上がり、その資金がハゲタカファンドに流れ込んで、日本の土地や企業を買い漁っていきます。

銀行預金にしても同じことがいえます。 もともと日本人のお金だったものが、預金の運用先が海外金融商品になることでいつの間にか海外の投資家が自由に使える 1000 倍のお金に変わり、そのお金で日本人が持っている資産を持っていかれるわけです。 つまり、お金も、日本に固有の資産も、奪われるのです。

日本人がせっせと貯めた貯金が海外に流れ、それが 100 倍、1000 倍になって日本に返ってきて、そのお金で日本の土地や建物が買われている。

このように、いま起こりつつあることは、勤倹貯蓄に励んだことが、自分の資産をごっそり奪っていくという、きわめて深刻な事態です。

これ以上に屈辱的な奴隷化が、国際経済のなかでかつてあったでしょうか。 だからこそ、私は、貯金を即刻止めるべきだといっているのです。

『洗脳経済』（2015.10.01　苫米地 英人）より

元凶は、通貨の発行権

■ **マイアー・アムシェル・ロスチャイルド（1744 ～ 1812）**

『私に一国の通貨の発行権と管理権を与えよ。
そうすれば、
誰が法律を作ろうと、そんなことはどうでも良い。』

■ **ヘンリー・キッシンジャー 元米国務長官（1923 ～ ）**

『食糧をコントロールする者が人々を支配し、
エネルギーをコントロールする者が国家を支配し、
マネーを支配する者が世界を支配する。』

「貨幣鋳造利差金」とは？（1/2）

■ 貨幣はどこからくるのか

連邦準備コーポレーション（私企業）が貨幣を印刷し、それに利子をつけて政府に貸し付けていることを知らぬ者はいない。 ここで、このプロセスがまったくのペテンであることを理解しなければならない。

私たちがこの問題の核心に到達する前に、銀行業務の本質に関わる一つのことを思い出してみよう。 第一に、貨幣にはその価値の基準となるものがあるはずだ。

アメリカの場合は、今でも実はいわゆる“金本位制”に基づいて動いている。 つまり、わたしたちの貨幣は金に裏づけられているのだ。

このことを念頭において、実際に貨幣がどのように、そしてどの程度のコストで作られるのかを見てみよう。

財務省が 100 ドル札を 1000 枚印刷するとする。 すると、インク、用紙、原版、労働力などに要する費用は総額で約 23 セント（＝ 0.23 ドル）かかる。 計算してみると、1 万枚の 100 ドル紙幣の印刷コストは総額 230 ドルである。

そしてここに問題がある。 1 万枚の 100 ドル札とは 100 万ドルに相当する。 つまり、連邦準備銀行は 100 万ドルを勝手に“**作れる**”。 そのうえに、それをアメリカ政府に、利子付きで貸しているのである。 しかもそのコストの総額はたったの 230 ドルだ。 こんなぼろい商売がほかにあるだろうか。

『 次の超大国は中国だとロックフェラーが決めた』（2006.03.31　ヴィクター・ソーン）より

「貨幣鋳造利差金」とは？（2/2）

銀行業界はこのプロセスを“**貨幣鋳造利差金**”（セイニョーリッジ：領主様が持つ権限という意味から来た）と呼んでいるが、わたしに言わせれば窃盗である。

なぜなら、この巨額の利ざや（230ドルで100万ドル）とともに巨額の利払い分がある。

このことを横に置くとしても、政府は巨額の借金返済のためにIRS（内国歳入庁＝アメリカの国税庁）というマフィアさながらの国家徴税機関を使って、アメリカ国民の金を掠（かす）め取る必要があるからだ。

銀行家たちは政府から盗み、政府はそこで今度は自分の体の向きを変えて国民から盗む。 天才でなくともわかることだ。 このプロセスで搾取されているのは誰か。そう、わたしたち、梯子段の一番下にいるわれわれ国民だ。

さらに悪いことにフォートノックス（アラバマ州にある合衆国金塊貯蔵所の所在地）にはどうやらもう金塊はあまり残っていないのである。 すべてなくなってしまっているらしい。

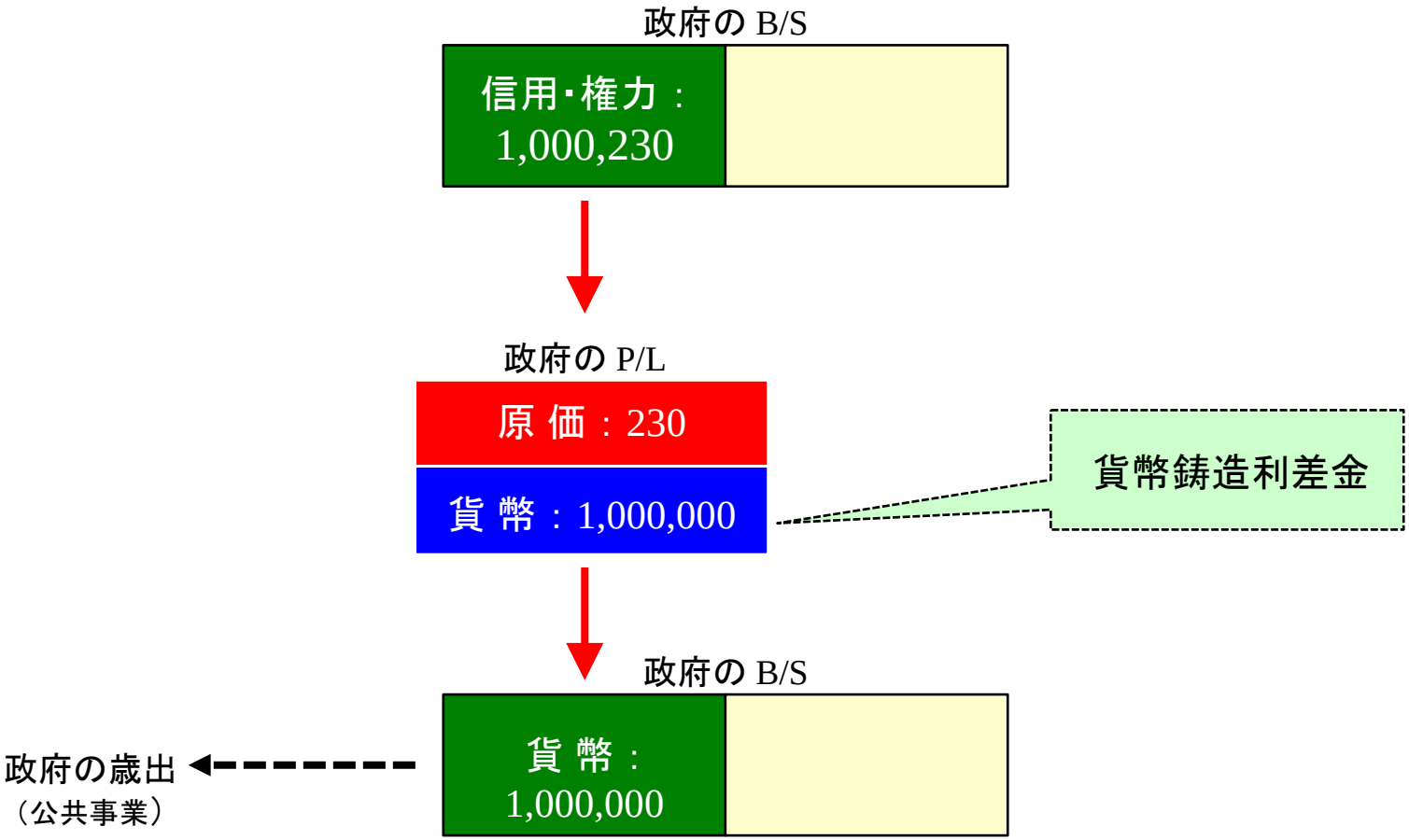
つまり、アメリカの金融制度の根幹をなす金本位制はもう幻想にすぎないのである。

わたしたち国民は手持ちの紙幣（マネー）を金（きん）に交換することは出来ない。別の国の通貨に変えることしか出来ない。 わたしたちの貨幣制度を支える基盤がかなり **でたらめ** と化している。

連邦準備銀行は思い上がりすぎて、文字どおり貨幣製造機と化し、虚空から大量のドル紙幣通貨を作り出している。

『次の超大国は中国だとロックフェラーが決めた』（2006.03.31 ヴィクター・ソーン）より

「政府」が「貨幣」を発行すると・・・



「銀行」が「紙幣」を発行すると・・・

労働者の B/S

労働力：100	税 金

← 納税の義務

政府の B/S

信用・権力	

（「労働力の商品化」の義務化）

企業の P/L

搾 取：49
給 与：51

→ 資本家の P/L

労働者の P/L

税 金：23.9
手 取：27.1

税・社会保険料 → 政府の P/L

効率が悪い

労働者の B/S

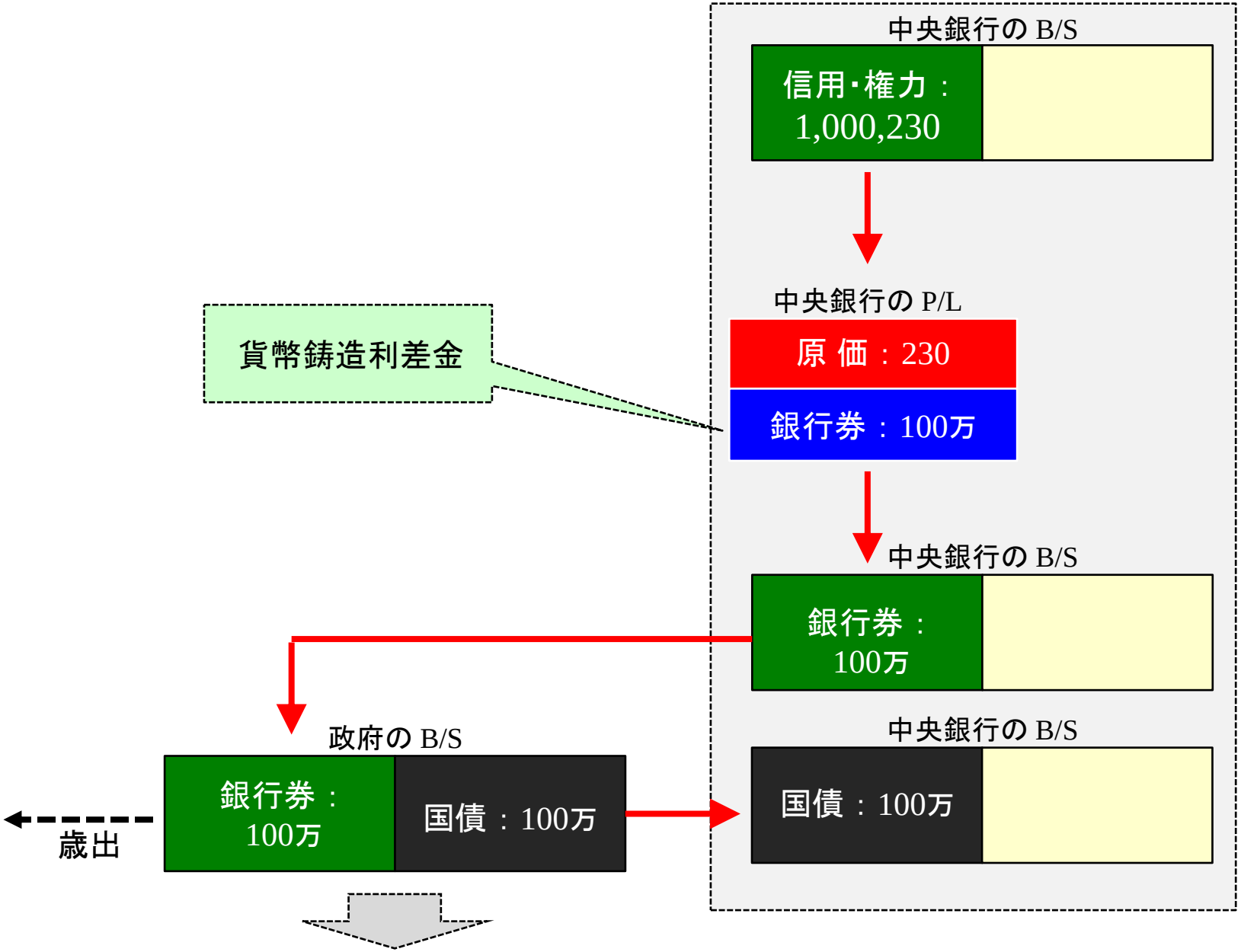
銀行券：27.1	

労働分配率（2020年度）

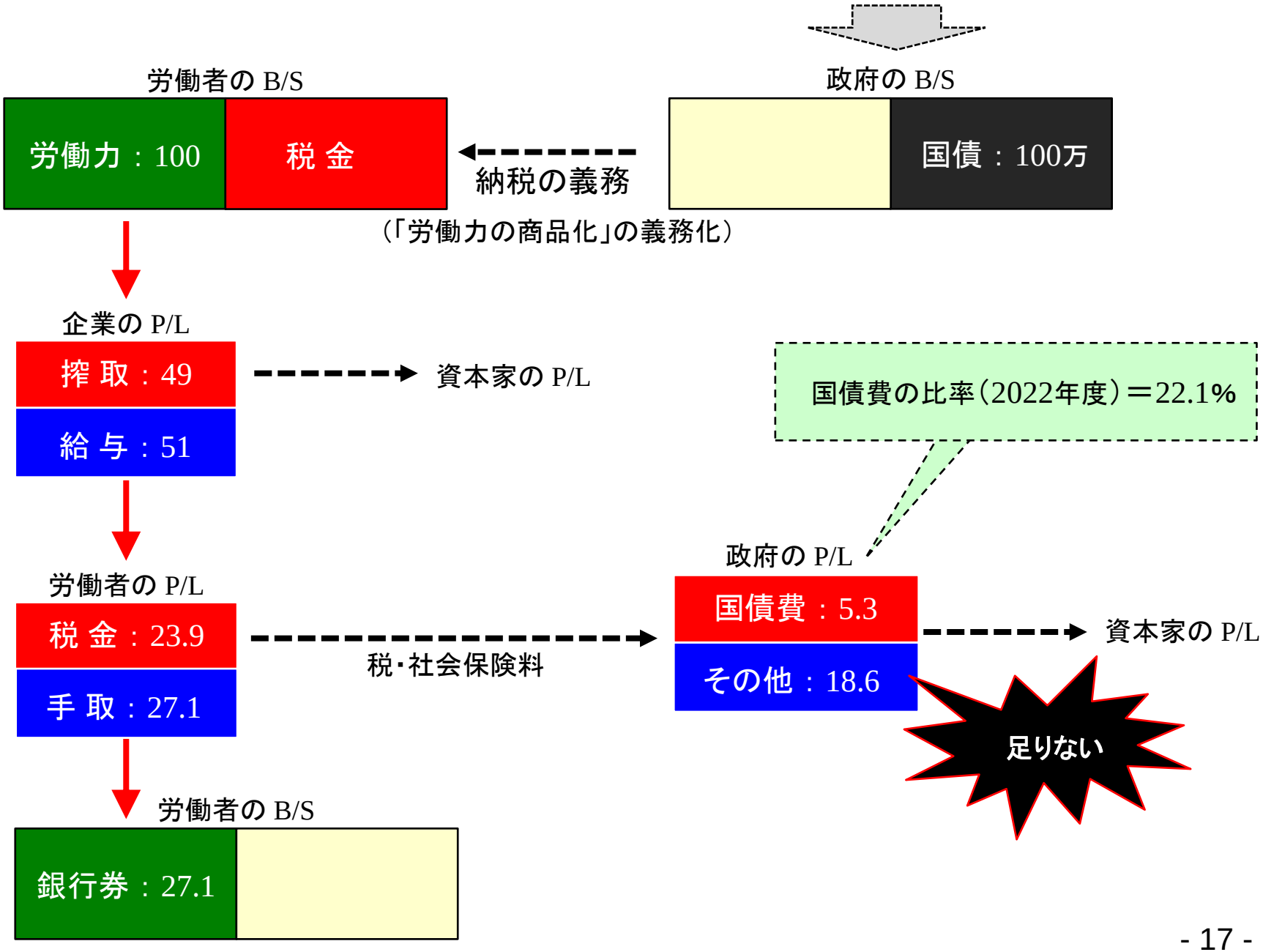
業　種	労働分配率
製造業	51.0 %
情報通信業	53.7 %
卸売業	49.7 %
小売り業	49.4 %
生活関連サービス業	72.9 %
飲食サービス業	74.9 %
技術サービス	61.2 %
全業種合計	50.7 %

国民負担率（2023年度）＝46.8%

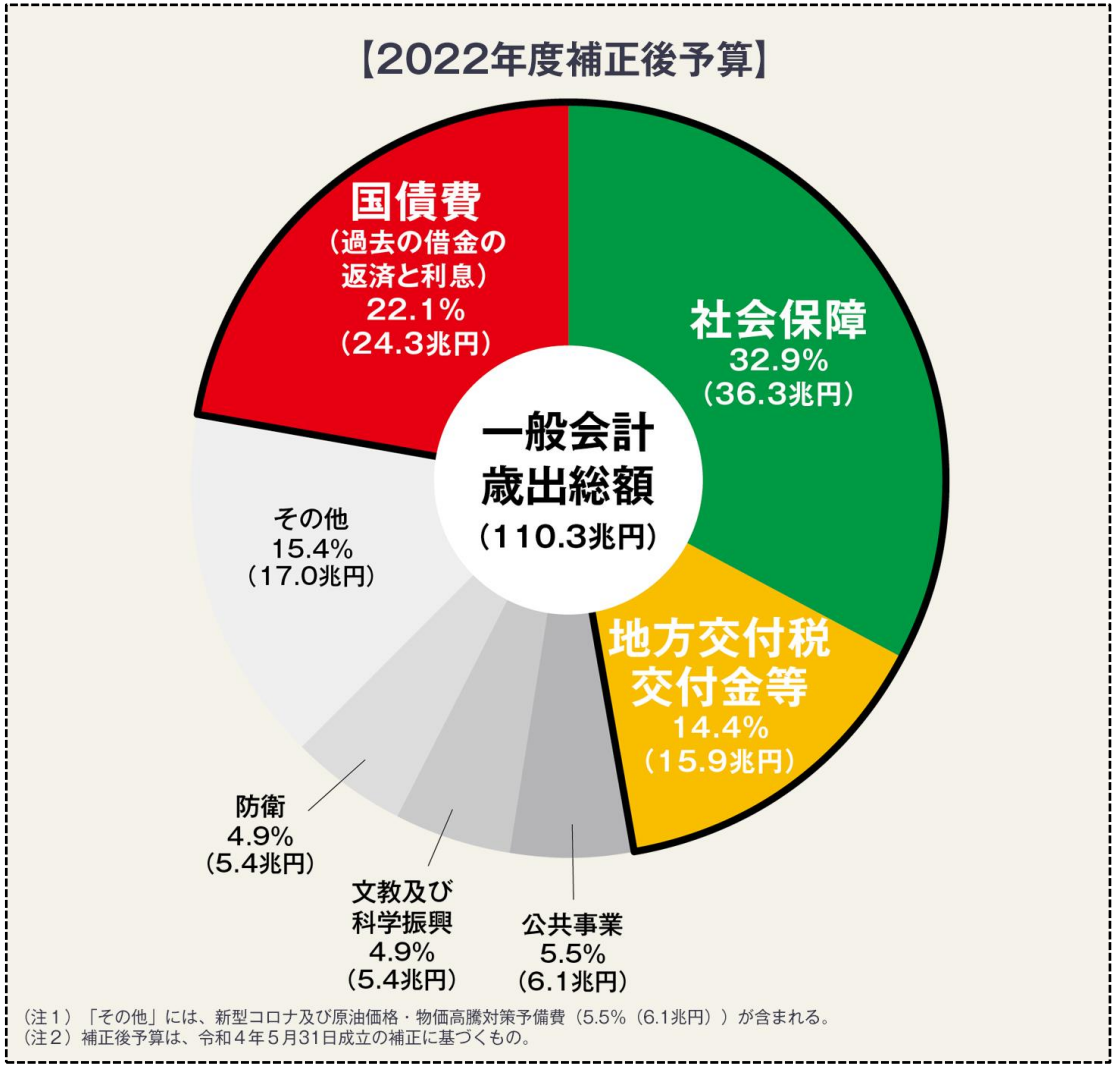
政府が「借金」をすると・・・（1/2）



政府が「借金」すると・・・（2/2）


労働者の B/S
労働力：100
税 金
納税の義務
（「労働力の商品化」の義務化）
政府の B/S
国債：100万
企業の P/L
搾 取：49
給 与：51
資本家の P/L
国債費の比率（2022年度）＝22.1%
政府の P/L
国債費：5.3
その他：18.6
資本家の P/L
足りない
労働者の P/L
税 金：23.9
手 取：27.1
税・社会保険料
労働者の B/S
銀行券：27.1

「借金」の集中と集積（1/2）



出典：財務省ホームページ

【全国民】
19.3 万円 / 人
（ 24.3 兆円 / 1.257 億人）

【生産年齢人口】
32.4 万円 / 人
（ 24.3 兆円 / 0.751 億人）

※15歳以上65歳以下
（2020年国勢調査）

【労働力人口】
35.2 万円 / 人
（ 24.3 兆円 / 0.690 億人）

※15歳以上で労働する意思と能力を持つ
（2022年総務省統計局）

「借金」の集中と集積（2/2）

① 資本の集中とは何か？

資本家は原材料を仕入れ、効率的な機械・設備などを入れて労働者に剰余価値をどんどん作り出させるので、次第に資本が蓄積・増大していきます。 その過程を資本の集中・集積と呼びます。

資本主義経済体制では、基本的に自由競争が行われます。 それは弱肉強食ともいえます。 そしてその結果、「勝ち組と負け組」が生まれます。

通例、勝ち組企業は負け組企業を吸収合併したりします。 今風にいえば、M&A です。

これにより、強い企業は弱い企業を打ち負かし、吸収合併しながら、どんどん資本を自社に集めることができます。 こうした現象を **資本の集中** といいます。

② 資本の集積とは何か？

お金や物などが 1 カ所で積み上がることを集積といいます。

『資本論』での **資本の集積** とは、強い企業が効率的な生産手段（機械や設備など）を導入して生産性を向上させ、特別剰余価値を含む膨大な剰余価値を手に入れ、それを内部に留保することです。

『マルクスの経済学がよくわかる本』（2009.12.23　阿部 真也、宮崎 哲也）より

「借金」で支配する（1/3）

■ 宗教としての貨幣

ワシントン・ポスト紙の元副編集長ウィリアム・グレーダーは、1987 年に『神殿の秘密 ― 連邦準備銀行はいかにしてこの国を動かしているか』という本を書いた。

そこには、支配者たちがどうやってこの不合理な状況をわたしたち国民に受け入れさせてきたかが詳細に記されている。

「紙幣を作りだすという不可思議な力は、歴代の祭司から受け継がれている。そして彼らは様々に入り組んだ社会的、心理学的意味を覆い隠して来た。」

「何より貨幣は信用と結びついている。 暗黙の普遍的な社会的合意を必要とし、それは実に不可解なものだ。 貨幣を作り出し、それを使うためには、それを一人ひとりが信頼し、全ての人が信頼しなければならない。 それで初めて価値のない紙切れが価値を持つようになる。」

貨幣は幻想にすぎないのである。 通貨制度の土台であるはずの金本位制（金との交換の保証）が消え失せてしまったからだ。

フォートノックスに金（きん）はもう残っていない。 すべてなくなってしまっている。かつては実物の価値を表すと思われていたドル紙幣が、ただの紙切れになってしまっているのである。

それに加えて、わたしたちの多くはその紙幣すらあまり使わなくなっている。 多くの会社が従業員の給料小切手を銀行振り込みに変えたからだ。

『 次の超大国は中国だとロックフェラーが決めた』（2006.03.31 ヴィクター・ソーン）より

「借金」で支配する（2/3）

銀行に金が入ってさえいれば、われわれは月末の支払い時期には山のように小切手を書いて支払いを済ませることが出来る。 ガソリンが必要なときはクレジットカードを使い、食品雑貨店ではデビットカードを使う。 金曜の夜にディナーに出かければ、ダイナーズカードに支払い請求が行く。

これだけの大量の支払いが、一枚の 1 ドル紙幣も使わずに済ませられるのだ。さらに電子決済を利用すれば、事実上、紙幣は一切使われなくなる。

では、こんなことがあってはたまらないが、コード番号付きマイクロチップが私たちの手の甲に埋め込まれたらどうなるか。

貨幣は単なる幻想と化してしまっているのである。 金（マネー）は電子の数字、あるいはコンピュータ画面上の金額にすぎない。 こうして、時代が進むにつれて、わたしたちはどんどんオズの魔法使いの“虚構の竜巻”に吸い込まれていくのだ。

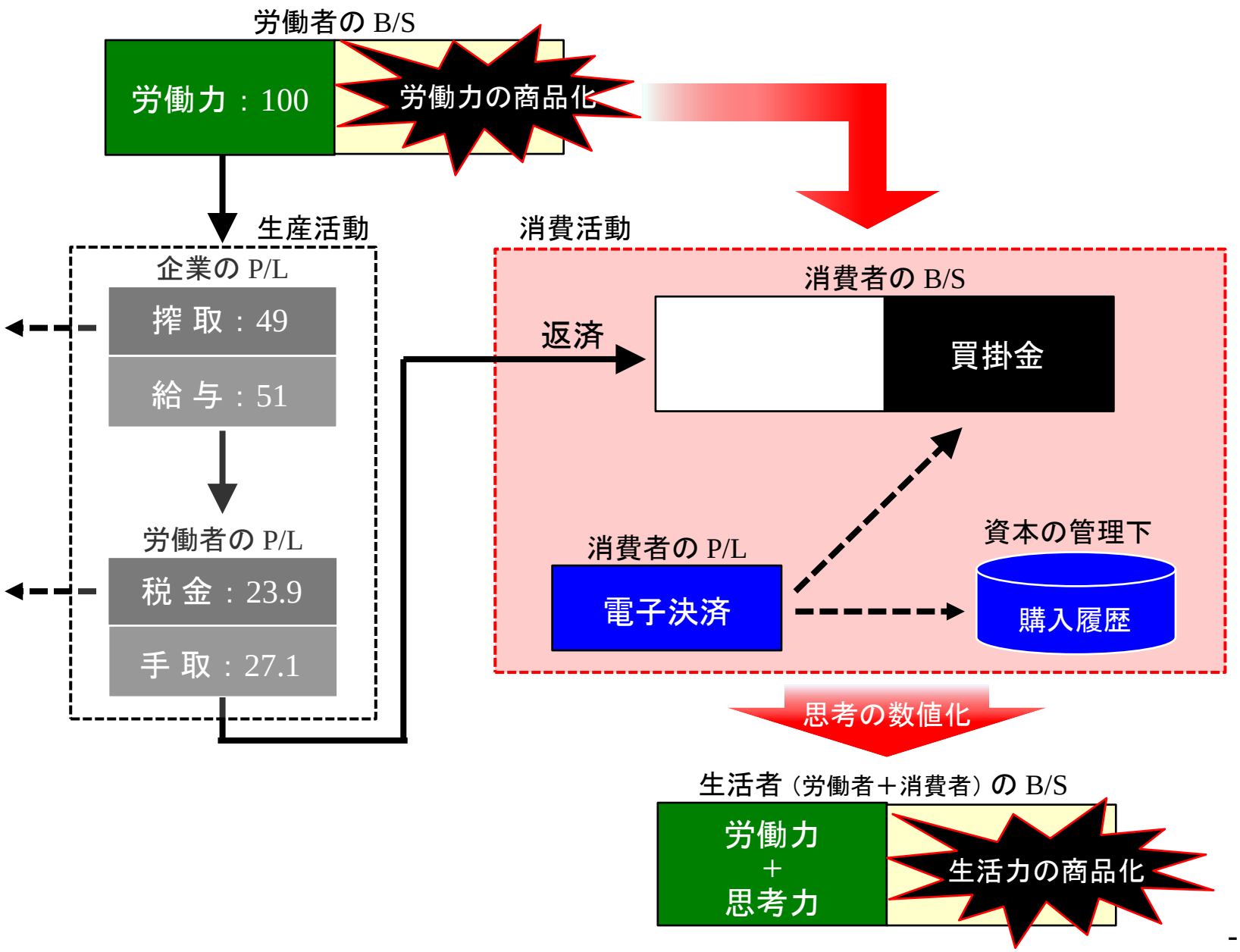
ちょっと考えてみよう。 わたしたちアメリカ人はこれまでになかったほどの個人負債を抱えている。 そして、莫大な国家債務を抱えてしまっている政府も、穴の奥深くへとどんどん落ち続けるばかりで、再び這（は）い出す望みがない。

わたしたちが本物の貨幣を手にする機会はますます減っている。 わたしたちはコンピュータ画面の電子の輝点が映し出す借金額の奴隷とされつつある。

さらに、連邦準備銀行を介してこの負債（借金）を管理している銀行たちの 70 %は外国にある。 一体全体、何が起こっているのだろうか。「この金融システム全体がもたらしたものは、社会のあらゆる階層が抱える巨額の負債だ」

『 次の超大国は中国だとロックフェラーが決めた』（2006.03.31 ヴィクター・ソーン）より

「借金」で支配する（3/3）


労働者の B/S
労働力：100
労働力の商品化
生産活動
企業の P/L
搾 取：49
給 与：51
労働者の P/L
税 金：23.9
手 取：27.1
消費活動
消費者の B/S
返済
買掛金
消費者の P/L
電子決済
資本の管理下
購入履歴
思考の数値化
生活者（労働者＋消費者）の B/S
労働力
＋
思考力
生活力の商品化